2004(平成16年)9月26日(日曜日)(1)
VOL.07
●無料版 ●毎月発行 ●発行部数 4,570部 ●配布エリア 岩見沢市・三笠市・美唄市・芦別
発行元：幾春別川ニュース編集委員会
編集委員長　樋口　義輝
〒068-0007
岩見沢市7条9丁目　石狩川流域総合開発岩見沢河川事務所内編集委員会事務局
TEL：0126-23-9555　FAX：0126-25-1697

大好き！幾春別川
DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

川辺に花を植えよう！
フラワーライン2004

普段は若い人たちと話す機会がないけど、今日は楽しかった」と地域に住む方々、世代を越えた交流も生まれました

フラワーライン会場には、四季折々の美しい花々が咲き誇ります

「幾春別川に花や樹木を植えて、美しい景観をつくろう」と、今年で10年目となるフラワーラインが幾春別川狩野橋下流左岸で6月11日、幾春別川をよくする市民の会の主催で行われました。

地域の住民や中学生など約150人が参加し、ハマナスやエゾムラサキツツジ、チューリップなど1,200株の花の苗と木が植えられました。

毎年狩野橋付近で花や木を植えてきましたが、今年は、草刈りなどの今までに植えてきた花壇の手入れも行われ、以前のきれいな花壇と同じ姿になりました。参加者からは「手入れさえすれば本当にきれいになるのですね」などの声が聞かれました。7月22日、8月10日には花壇の手入れが行われ、きれいな幾春別川の姿が維持されるよう努力されています。

手入れを続けることで、10年たっても美しい景観を守っていくことができることを実感させられたイベントでした。

後日、雑草が生えていた花壇の手入れをし、すっかりきれいになりました！

みんなで協力して、一本一本ていねいに植えていきました

連載②
流域の野鳥　秋

草原の貴公子「シマアオジ」

秋、静まりかえった広い堤防の草地に腰を下ろし耳を澄ましていると思い出される鳥がいる。「ヒョー、ヒョー、チリ、チリ、チリ、チョウ、ピイ、ピイ」と、リズム感のあるフルートの音色に似た声で鳴いているシマアオジ。野鳥観察者の間では「草原の貴公子」「草原のフルート奏者」という愛称で呼ばれている。

本州の野鳥観察者はこの鳥との出会いを求め、飛行機に乗ってわざわざ会いに来るほどの憧れの鳥。日本では北海道だけに飛来して繁殖する。しかし最近、シマアオジは激減し、観察が難しくなってきた。自然環境の変化など原因は色々考えられるが、四輪駆動車などによる堤防への立ち入りや、ゴミの不法投棄も大きな原因の一つと思われる。

静まりかえった堤防で上空を見上げると、厳しい冬を南の暖かい地方で越冬するカモ・ハクチョウ・マガンなどの水鳥の群れが飛んでいく姿を見ることができる。静かに座って鳥たちを見ているだけで、四季の移り変わりを感じられる。

散歩道として整備され、多くの人たちが利用するようになった河川敷を憩いの場として正しく利用したい。そして再び、シマアオジがこの幾春別川の上空に戻ってくることを期待したい。

（岩見沢野鳥の会　若林信男）

緑中校章

フラワーラインに参加して

～岩見沢市立緑中学校のみなさん

フラワーラインに参加した緑中学校の生徒さんたちは、「花壇がきれいになった」「植えた花を見るのが楽しみ」「地域の人たちとお話できたのが良かった」など、それぞれの感想を胸に抱いたようです。たくさんの感想の中から、一年生の声を一部だけご紹介します。

熊谷　奈津紀さん

この活動に参加して思ったことは、「去年参加した人はもっと大変だったのかなー」ということと、「川は草花といっしょになってうれしそうだなー」ということです。私はもともと畑仕事が好きなので、とてもおもしろかったです。

いろいろな花が咲いていて、しっかり根強く育っていて、とってもきれいだったです。今度橋を通るときは、「自分たちが植えた花だなー」と思って通れるといいなと思います。

この活動に参加できて本当によかったです。いろいろな経験ができて勉強になりました。ありがとうございます。

千葉　愛さん

私がフラワーラインに参加した理由は、部活参加だったからです。実際に参加をして何の木かわからなかったけれども、どこに植えようか迷ったし、順番を待っているあいだ、木を持っているのが重たかったし、少し大変だったけど友達とやったので楽しかったです。私はこの経験を通して、植物を植える楽しさや、手伝いに来てくれた人たちのつながりができたかなと思います。

次のフラワーラインでは、部活で参加ではなく、自分からやってみようと思っています。

川上　北斗くん

ぼくがフラワーラインに参加してまず思ったことは、とても長い花壇に花を植えて50分で終わるのかという思いでした。しかし緑中学校の生徒、地元の人の協力で、あっという間に終わりました。

次に植えた花についての感想は、ラベンダーは近くで臭いをかぐと、とてもいい臭いがしました。ハマナスはあちこちにとげがあり、軍手をはいていても痛かったです。ツツジは持ってないけどハマナスより少しだけ大きかったです。全体についての感想は、おじさん、おばさんたちがていねいに教えてくれたので、ぼくでも3個ほど植えられました。おじさん、おばさんたちがもくもくとやっている姿を見て「熱心にやっているなあ」と感心しました。こういうボランティアに協力して頑張るのもいいことだと思います。

野村　敏貴くん

ぼくは、フラワーラインに参加していろいろなことを学びました。まず、木の大切さを学びました。木がないと二酸化炭素が増え人間が住めなくなるから、木があって良かったなと思いました。

また、フラワーラインでお年寄りはすごいと思いました。お年寄りは昔から重たい物を持って仕事をしていたから、重い物を軽々と持てるんだなと思いました。やっぱりお年寄りはすごいと思いました。

平成16年6月11日、幾春別川の近くで花を植える行事、フラワーラインに参加しました。いつも家ではやらない花を植えるという作業。今までは面倒くさがっていました。でも、積極的に取り組んだ。思っていた以上に楽しく、少ない時間だったけれど、たくさん植えることができました。この近辺の地域が少しでも多く緑(自然)に囲まれてくれれば良いと思いました。地域の人もたくさん参加していました。

これからも花や木を植える行事にぜひ参加したいです。緑(自然)をふやして、自然とふれあっていきたいと思います。初めて参加しましたが、いい経験になったと思いました。

諸橋　勇佑くん

私はフラワーラインに参加して良かったと本当に思っています。

私がフラワーラインに参加した理由は、自分からやろうと思ったからじゃありません。その日は部活で、フラワーラインは行きたくても行けなく、どうしようもなくて、いざ部活に行ったら本当は部活がなくて、急きょ、みんなでフラワーラインにいきました。そんな理由で行ったなかでも花を植えるのが楽しくて、ラジオ番組の取材の人が来て取材を受けたりして、とっても楽しかったです。参加した理由は自分から積極的ではなかったけど、フラワーラインに参加できて本当に良かったです。

またこのような行事があったら今度は自分から積極的に出てみようと思います。

剣持　明那さん

とても大切な行事なので全校で力を合わせ、これからも継続していきたいです！

感動！驚き！楽しみ満喫！川のイベント紹介

北村も発表「北海道・川の日ワークショップ」

第3回「北海道・川の日ワークショップ」が6／26、尻別川流域の蘭越町で開催。市民団体、行政などが川に関する日ごろの活動や事業の成果を発表し、公開選考会という方法で評価しあうもので、3分科会28団体が参加しました。

幾春別川流域からは北村の「NPO法人山のない北村の輝き」より3人が参加し、旧美唄川の河川調査について発表。残念ながら選にはもれましたが、「地域の人々による日々の活動の大切さを実感」「自然の素晴らしさと人の温かさを知った」などの感想を話してくれました。

親子で自然満喫―三笠でトムソーヤキャンプ

ファミリーランド三笠遊園などの幾春別川上流で、7／31、8／1、1泊2日の日程でトムソーヤキャンプが行われ、三笠、岩見沢、北村から20家族72名が参加しました。ヤマベ釣り体験、森林散策、林業体験、人気のツリークライミングなどを子供も大人も共に体験しながら、自然とのふれあいを存分に満喫し、水の循環や自然環境の大切さを学びました。

幾春別川上流で熱戦のカヌー競技大会

第12回「幾春別川カップ」カヌー競技大会が、6／19・20日、三笠市西桂沢の幾春別川で三笠カヌークラブの主催で開催されました。

地元や札幌、帯広などから集まったカヌー愛好者や初心者など約80名、ロディオの第一人者で2年連続で日本選手権を制した八木さんをゲストとして迎え、2日間にわたる熱い闘いが繰りひろげられました。

三笠ダムフェスタ&みかさ遊園まつり

7／25、みかさ遊園でダムについて関心を持ってもらうことを目的した「三笠ダムフェスタ&みかさ遊園まつり」が開催され、1,700人ほどが来場。ダムに関するパネル展示のほか、桂沢ダム、上水道施設などの水めぐり見学ツアー、またカヌーの試乗会や金魚すくいなどをして、多くの家族連れは暑い日差しのなか、夏らしいイベントを楽しんでいました。

流域の連携をテーマに北村で開催

北海道Eボート大会

たくましいパドルさばきで水面を力走する選手たち

本格的な夏らしい晴天に恵まれ、第10回北海道Eボート大会が北海道Eボート大会実行委員会の主催で7月17、18日の両日、北村の雁里沼などを会場に開かれました。

Eボート大会は、Eボートを楽しみながら川や流域のことをよりよく知ろうと取り組まれているイベントです。10回目の節目となる今回は旧美唄川の川下り、シンポジウム、記念植樹、交流会、そしてEボートトーナメント大会など盛りだくさんのプログラムで繰り広げられました。

北村の村上村長による主催者あいさつ

大会第1日目の午前中は、Eボート、カヌーなどによる旧美唄川川下りが行われ、夏の心地よい風を頬に受けながら川下りを楽しんでいました。午後からのシンポジウムでは、北星学園大学秋田谷英次教授による「天の恵み～水と雪～石狩川流域において」、石狩川開発建設部足川守部長による「石狩川・旧川をわたる風」のテーマで講演が行なわれ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

2日目ののEボートトーナメント大会には22チームが参加。幾春別川関係で活動する市民団体などからの参加チームは子供も主体で懸命なオールさばきを見せ努力賞の「幾春別川をよくする市民の会」「初めてですけれど、参加してみたいへん楽しい思いができました」（北村環境整備士チーム）、「優勝を狙っていたけれど、レースをしてみてチームワークの大切さが分かりました。来年も再チャレンジです」（北の勇者きたむらチーム）、「初参加ですが楽しかったです。やっとですが5位になれてほっとしてます」（北村スノーモービルチーム）、「優勝できる実力はないと思っていたので、初めからウケ狙いでした。来年は実力もつけてまた挑戦します」（パフォーマンス賞の北村商工会青年部チーム）、などイベントの楽しさと手ごたえを語っていました。

大会結果

〔優　勝〕	DSふれあい隊
〔準優勝〕	NSG　E-Boatクラブ
〔3　位〕	河坊主1号
〔4　位〕	石狩川下覧櫂
〔5　位〕	北村スノーモービル
〔努力賞〕	幾春別川をよくする市民の会
〔もりあげてくれたで賞〕	チームもとろく
〔パフォーマンス賞〕	北村商工会青年部

Eボート大会を成功させた男たち

インタビュー

「山のない北村の輝き」
島　一雄さん

北村は人口3,800人ちょっとの小さい村ですが、『元気があるぞ』とか、村の出身者が『北村ていいんだよ』という誇りを持てるように、これからもみんなで頑張っていきたいです。

NPO法人
山のない北村の輝き
島　一雄さん

北村役場
七戸　徹さん

NPO法人
水環境北海道
後藤　三郎さん

川とわたしの思い出 ①-2

幾春別川をよくする市民の会
理事　近藤　寛

沢は、やはり広くて明るい方が気持ちよく、標高差があり遡行した先に目標があれば足も軽くなる。ともあれ、初めは左股沢に挑戦することにした。

2回の事前調査ののち、10月19日、朝6時、市民の会の田中・今井・小谷・近藤の4人で岩見沢を出発。天気予報は晴れだが、空には雲が低くたれ込めている。7時10分、ゲート入口から林道に入った。案の定、事前調査の時より林道は荒れていて、15分も進まない所で崩れている。車を慎重に運転する。窓からのぞくと、真っ直ぐ70～80メートルくらい下沢に土砂が落ちている。結局、林道の終点まで40分かかった。

8時に左股沢左岸から入渓。沢の幅は5～6メートル、水量は比較的多かったが、難儀するほどではない。10分ほど進むと二股になる。沢は右へ行くべきだったが、右へ入るのが早すぎると思い、正面の沢を選んだ。結果的にはここで間違え、最終的には幾春別岳西方1キロの標高950メートル地点の支稜に出てしまった。

この支稜から幾春別岳までは、直線距離にして1キロ弱。普通の山であれば、1時間も歩けば到着している道のりなのに、この笹やぶの状態では3、4時間やぶをこいでも到達しそうにない。折しも雨が降り出した。再度チャレンジすることを誓い合いながら下山したが、平成16年現在、その誓いは達成されていない。

（終わり）

連載

化石の宝庫 幾春別川②

三笠市立博物館特別展「よみがえるアンモナイトの世界」開催中！

アンモナイトは、学校の教科書や博物館などで一度は目にしたことのある化石ではないでしょうか。しかし、実際にアンモナイトはどのような生物だったのかについては、意外に知られていません。

アンモナイトは約4億年前の古生代シルル紀後期から出現し、約6,500万年前の白亜紀末に絶滅したイカやタコの仲間である頭足類と呼ばれる一群に属する生物です。

前号で紹介したように三笠市の幾春別川上流域では、約1億年前の白亜紀に堆積した海の地層が広く分布しているため、当時繁栄したアンモナイトがたくさん産出します。その中にはミカサイテス（写真1）のように、学名に「みかさ」の名前が使われているものもあります。

アンモナイトにはミカサイテスのように平面らせん状に巻いたものから、ニッポニテス（写真2）のように変わった形をしているものまであり、これまでに見つかった種類は1万を越えています。

殻の形は、海の環境と密接に関係していることがあり、例えば、殻の幅の細いゼランダイテス（写真3）は浅い海の地層からよく産出します。このような形は水の抵抗が少ないため、浅い海のような波や流れの影響を受けやすい場所で生息するのに適しています。

このようにアンモナイトは、生きていた時代や環境と密接に関係しながら、多種多様な種類へと進化を遂げたのです。

今回紹介したきれいなアンモナイトは、10月11日（月）まで開催している三笠市立博物館特別展「よみがえるアンモナイトの世界」の展示標本です。ぜひ一度ご覧になって下さい。

（三笠市立博物館 研究員 栗原憲一）

多様な形のアンモナイト

写真1 ミカサイテス

写真2 ニッポニテス

写真3 ゼランダイテス

水辺の風景

三笠市 古平 文男さんの作品 「秋の西桂沢」

写真募集

あなたの好きな水辺の風景を写してみませんか。

応募内容

・プリント、デジタルデータ、ポジフィルムなど、形態は自由。
・あなたの「想い」など、お送りいただく写真の風景についてのコメントを原稿用紙などに100文字以内にまとめて、写真と一緒にお送りください。
・順番に「大好き！幾春別川」に掲載させていただきます。
＊1人何点でも応募可。
＊写真の返却はいたしません。
＊応募は随時受付

送付先：下記連絡先
「大好き！幾春別川 水辺の風景係」まで

連載

田園暮らしを楽しもう 最終回

秋 ―実りを迎えた恵みのとき―

北村字豊里 「雪と土に親しむ北の生活館」
秋田谷 英次さん

ジャガイモの出来ぐあいを確認する秋田谷さん

雪と土と北の生活館は、実りの季節を迎えました。8月に入るとジャガイモやトウキビ、カボチャなどの野菜の収穫が始まり、札幌から大勢のお客さんがやって来ます。「畑からとってすぐに食べたスイカがとてもおいしかった」「静かなのでリラックスできる」など、つかの間の滞在を心から楽しんでいます。

秋田谷さんは「都会の多くの人は、本当はこういう環境で暮らすことを望んでいるのだと思います。また、自然のなかで思い切り遊び、畑からもいだ野菜などをすぐに食べることは、子供の成長や教育にとって、大変に良い影響を与えるはずです」と大人も子供も、田舎の空気に触れることの大切さを教えてくれました。

北海道は長くて寒い冬があるからこそ、春がやってきたときの感動も大きいのです。そして、短い北海道の夏だからこそ思い切り自然に触れ親しみ、暑い太陽の恵みを感じます。また、秋には長い冬に備えて、野菜や果物などの自然の恵みを大地から受け取ります。秋田谷さんは、「旬の野菜を食べる感動を大切にしたいと思います。自然が盛衰を繰り返してわたしたちに恵みがもたらされるのは、物事の理にかなっていると感じます」と四季の大切さを述べています。

親子で楽しく収穫体験

お便りお待ちしております！

本紙は、楽しい誌面をつくるために読者みなさまからのご意見やご感想をお聞きしております。また、「○○についてぜひ取り上げてほしい！」という話題もお待ちしております。どしどしお寄せください。

【連絡先】
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内
幾春別川ニュース編集委員会 事務局
〒068-0007 岩見沢市7条9丁目
※ご質問の内容は、郵送か、ファックス（0126・25・1837）にお願いいたします。

年間行事予定

サケの遡上観察会
開催日：9月25日～10月31日
場 所：岩見沢市東町703番地先 川向頭首工
主 催：幾春別川をよくする市民の会

フラワーライン（秋）
開催日：9月30日
場 所：狩野橋付近（岩見沢市）
主 催：幾春別川をよくする市民の会

幾春別川クリーン作戦
開催日：10月中旬
場 所：三笠水辺の楽校「であい」ほか市内6ヵ所
主 催：三笠の湖・川・緑を愛する会

緑の回廊植栽事業
開催日：10月中旬
場 所：萱野橋上流右岸（三笠市）
主 催：三笠の湖・川・緑を愛する会

緑の回廊植栽事業
開催日：10月中旬～下旬
場 所：北幌橋左岸下流（予定）
主 催：NPO山のない北村の輝き

緑の回廊づくり市民植栽
開催日：10月中旬～下旬
場 所：狩野橋左岸下流（予定）
主 催：幾春別川をよくする市民の会

サケの特別採捕・体験学習
開催日：10月中旬～下旬
場 所：岩見沢市東町703番地先 川向頭首工
主 催：幾春別川をよくする市民の会

サケの発眼卵受け入れ
開催日：12月上旬
場 所：岩見沢水道庁舎図書室
主 催：幾春別川をよくする市民の会